

保 険 数 学 2 (問 題)

1. 次の (1) から (5) までについて、それぞれ五つの選択肢の中から正しい答を一つ選んで、所定の解答用紙にその記号 [(A) から (E) のうちいずれか一つ。] を記入せよ。 (40点)

(1) 脱退原因が A、B からなる 2 重脱退表において脱退力が $\mu_x^A = \frac{1}{100-x}$ 、 $\mu_x^B = \frac{1}{90-x}$ のとき、40 歳の A 脱退率 q_{40}^A の値は次のうちどれに最も近いのか。

(A) 0.0145 (B) 0.0150 (C) 0.0155 (D) 0.0160 (E) 0.0165

(2) x 歳加入、 n 年払込、契約当初より n 年後から年金支払を開始する T 年有期の生命年金 (年金年額 1、年 1 回期始払) の年払営業保険料は次のうちどれに最も近いのか。

但し、 x 歳加入、 n 年払込、保険期間 n 年の養老保険 (保険金額 1、保険金年末払) の年払営業保険料は 0.0224、 $\ddot{a}_{x+n:\overline{n}|} = 8.64$ 、 $P_{x:\overline{n}|} = 0.0053$ とし、予定事業費は以下のとおりとする。

	有期生命年金	養老保険
予定新契約費	新契約時に年金原資の 20%	新契約時に保険金額の 20%
予定集金費	保険料払込のつど、年払営業保険料の 3%	保険料払込のつど、年払営業保険料の 3%
予定維持費	保険料払込中は毎年始に年金原資の 2%	保険料払込中は毎年始に保険金額の 2%
	年金開始後は毎年始に年金年額の 1%	

(A) 0.1478 (B) 0.1481 (C) 0.1484 (D) 0.1487 (E) 0.1490

(3) x 歳加入、年払全期払込、 n 年満期養老保険 (保険金額 1、保険金年末払) において t 年経過後に払済保険へ変更すると払済保険金額は 0.7774 になる。

延長保険へ変更する場合、生存保険金額に最も近いのは次のうちどれか。

但し、 $v = 0.9524$ 、 $\ddot{a}_{x:\overline{n}|} = 15.8314$ 、 $A_{x+t:\overline{n-t}|} = 0.5732$ とする。

また、解約控除はないものとし、払済保険の予定事業費は毎年始に保険金額の 0.0025、また、延長保険の予定事業費は毎年始に死亡保険金額の 0.0015 と生存保険金額の 0.0010 の合計とする。

(A) 0.750 (B) 0.754 (C) 0.758 (D) 0.762 (E) 0.766

(4) (x) 、 (y) は異なる生命表に従っており、 (x) の属する生命表には $l_x = 1 - \frac{x}{75}$ ($0 \leq x \leq 75$) という関係が成立している。また、各々の生命表の同じ年齢 t における (x) の生命表の死力 μ_t^x 、 (y) の生命表の死力 μ_t^y の間には $\mu_t^y = 2\mu_t^x$ という関係が成立している。すなわち、同じ年齢の死力について生命表 (y) は生命表 (x) の 2 倍である。 (x) が 65 歳、 (y) が 55 歳のときの \ddot{e}_{xy} の値は次のうちどれに最も近いのか。

(A) 3.51 (B) 3.52 (C) 3.53 (D) 3.54 (E) 3.55

(5) ${}_{\infty}q_{xy}^2 = 0.4$ 、 ${}_{\infty}q_{xz}^2 = 0.5$ 、 ${}_{\infty}q_{xyz}^2 = 0.2$ のとき、 ${}_{\infty}q_{xyz}^3$ の値は次のうちどれに最も近いのか。

(A) 0.35 (B) 0.36 (C) 0.37 (D) 0.38 (E) 0.39

2. x 歳加入年払全期払込 n 年満期養老保険（保険金額1、保険金年末払）における t 年経過後の平準純保険料式責任準備金を ${}_tV_{x:\overline{n}|}$ 、チルメル割合を α としたときの全期チルメル式責任準備金を ${}_tV_{x:\overline{n}|}^{(2)}$ で表わすものとする。

いま、 $\alpha_0 = \frac{{}_1V_{x:\overline{n}|}}{1 - {}_1V_{x:\overline{n}|}}$ とするとき、 $t (= 0, 1, 2, \dots, n-1)$ に対し、 α と α_0 の大小関係により、 ${}_{t+1}V_{x:\overline{n}|}^{(2)}$ と ${}_{t+1}V_{x+1:\overline{n-1}|}$ の大小関係がどうなるか述べよ。 (15点)

3. x 歳加入年払全期払込 n 年満期養老保険（保険金額1、保険金年末払）において、予定利率を i から i' ($i < i'$) に変更したとき、次の各問に答えよ。

但し、 $t_1 \leq t_2$ のとき、 ${}_{t_1}V_{x:\overline{n}|} \leq {}_{t_2}V_{x:\overline{n}|}$ が成り立つものとする。

また、ダッシュ付の記号は予定利率 i' によるものとし、 $i' - i = \Delta i$ 、 $P'_{x:\overline{n}|} - P_{x:\overline{n}|} = \Delta P$ 、 ${}_tV'_{x:\overline{n}|} - {}_tV_{x:\overline{n}|} = \Delta {}_tV$ とする。 (20点)

(1) $R_t = (1 + i') \Delta P + ({}_tV_{x:\overline{n}|} + P_{x:\overline{n}|}) \Delta i$ とすると、 $R_t \leq 0 \leq R_{t+1}$ となる t_0 が存在することを証明せよ。

(2) ${}_tV'_{x:\overline{n}|} \leq {}_tV_{x:\overline{n}|}$ を証明せよ。

4. 次の(ア)から(エ)の条件を満足する終身年金保険について、下記の各問に答えよ。

(ア) 契約者（被保険者と同一人とする）は40歳で加入し、年金開始年齢は60歳である。

(イ) 年金開始年齢に到達する前に、被保険者が死亡した場合、その保険年度末に既払込保険料の元利合計額（利率は予定利率 i と同じとする）を支払う。

(ウ) 被保険者が年金開始年齢まで生存した場合、年金開始年齢到達時を第1回目として、年金年額1万円の終身年金（年1回期始払）を支払う。

(エ) 保険料は年払とし、年金開始年齢到達以降は払い込まないものとする。

(25点)

(1) 付加保険料はないものと仮定して、次の空欄に当てはまる適当な算式または数値を所定の解答用紙に記入せよ。また、①については算出過程も所定の解答用紙に明記せよ。

純保険料を P とすると、 t 年経過後 ($1 \leq t \leq 20$) の平準純保険料式責任準備金 ${}_tV$ は $P \times$ ① と表わすことができる。一方、20年経過後の平準純保険料式責任準備金は終身年金原資 ② と等しいことを利用すると、 P は ③ であることがわかるので、 ${}_tV$ は ③ \times ① と表わすことができる。

(2) 付加保険料が営業保険料 P^* の5%（保険料払込のつど）のみと仮定したとき、算出過程を所定の解答用紙に明記のうえ営業保険料の値を求めよ。（小数点第1位を四捨五入）

但し、 $D_{40} = 20,173$ 、 $D_{60} = 8,374$ 、 $M_{40} = 5,160$ 、 $M_{60} = 4,031$ 、 $v = 0.9615$ 、 $(1 + i)^{20} = 2.193$ とする。

なお、条件(イ)においては、既払込営業保険料の元利合計額（利率は予定利率 i と同じとする）を支払うものとする。

以上

保 険 数 学 2 (解 答 例)

1.

設 問 番 号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
解 答 欄	(E)	(A)	(B)	(D)	(A)

正解は上表のとおりであるが、以下に各設問の解答方法を略記する。

(1) …… (E)

$$\mu_x = -\frac{d}{dx} \log l_x, \mu_x = \mu_x^A + \mu_x^B \text{ より } l_x = K(100-x)(90-x) \quad (K \text{ は定数})$$

原因Aによって脱退する者の数を a_x とすると

$$a_x = \int_0^1 l_{x+t} \mu_{x+t}^A dt = K(90-x - \frac{1}{2})$$

$$\therefore q_{40}^A = \frac{a_{40}}{l_{40}} = 0.0165$$

(2) …… (A)

有期生命年金と養老保険の営業保険料をそれぞれ P_1, P_2 とし、有期生命年金の年金原資を F とすると

$$F = 1.01 \ddot{a}_{x+n:\overline{T}|}$$

$$\text{収支相等の原則より、} P_1 \ddot{a}_{x:\overline{n}|} = A_{x:\overline{n}|} \frac{1}{F} + 0.02F + 0.03P_1 \ddot{a}_{x:\overline{n}|} + 0.002 \ddot{a}_{x:\overline{n}|} F$$

$$P_1 = \frac{1.01 \ddot{a}_{x+n:\overline{T}|}}{0.97} \left(P_{x:\overline{n}|} \frac{1}{F} + \frac{0.02}{\ddot{a}_{x:\overline{n}|}} + 0.002 \right)$$

$$\text{一方、} P_2 = \frac{1}{0.97} \left(P_{x:\overline{n}|} + \frac{0.02}{\ddot{a}_{x:\overline{n}|}} + 0.002 \right)$$

$$\therefore P_1 = 1.01 \ddot{a}_{x+n:\overline{T}|} \left(P_2 - \frac{P_{x:\overline{n}|}}{0.97} \right) \doteq 0.1478$$

(3) …… (B)

払済保険金額を S 、生存保険金額を S' とすると

$$S = \frac{{}_t V_{x:\overline{n}|}}{A_{x+t:\overline{n-t}|} + 0.0025 \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|}}$$

$$A_{x+t:\overline{n-t}|} = 1 - d \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|} \quad {}_t V_{x:\overline{n}|} = 1 - \frac{\ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|}}{\ddot{a}_{x:\overline{n}|}} \text{ より}$$

$$\ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|} = \frac{(1-S) \ddot{a}_{x:\overline{n}|}}{1 + (0.0025 - d) S \ddot{a}_{x:\overline{n}|}} \doteq 7.9203 \quad {}_t V_{x:\overline{n}|} \doteq 0.4997$$

$$S = \frac{{}_tV_{x:\overline{n}|} - (A_{x+t:\overline{n-t}|} + 0.0015 \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|})}{A_{x+t:\overline{n-t}|} + 0.001 \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|}}$$

$$= \frac{{}_tV_{x:\overline{n}|} - (1 - d \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|} - A_{x+t:\overline{n-t}|} + 0.0015 \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|})}{A_{x+t:\overline{n-t}|} + 0.001 \ddot{a}_{x+t:\overline{n-t}|}} \doteq 0.7538$$

(4) …… (D)

(x)、(y) の t 年後の生存確率を ${}_tP_x$ 、 ${}_tP'_y$ とすると

$${}_tP_x = \frac{l_{x+t}}{l_x} = \frac{75-x-t}{75-x}$$

$${}_tP'_y = e^{-\int_0^t \mu'_{y+s} ds} = e^{-2 \int_0^t \mu_{y+s} ds} = ({}_tP_y)^2$$

$$\ddot{e}_{xy} = \int_0^\infty {}_tP_x {}_tP'_y dt = \int_0^\infty {}_tP_x ({}_tP_y)^2 dt$$

$$\therefore \ddot{e}_{65:55} = \int_0^{10} \left(\frac{10-t}{10} \right) \left(\frac{20-t}{20} \right)^2 dt = 3.541666\dots$$

(5) …… (A)

$$\infty \mathcal{G}_{xyz}^3 = \int_0^\infty {}_t\mathcal{G}_y {}_t\mathcal{G}_z {}_tP_x \mu_{x+t} dt = \int_0^\infty (1 - {}_tP_y) {}_t\mathcal{G}_z {}_tP_x \mu_{x+t} dt$$

$$= \int_0^\infty {}_t\mathcal{G}_z {}_tP_x \mu_{x+t} dt - \int_0^\infty {}_t\mathcal{G}_z {}_tP_{xy} \mu_{x+t} dt$$

$$= \infty \mathcal{G}_{xz}^2 - \infty \mathcal{G}_{xyz}^2 \dots\dots \textcircled{1}$$

$$\text{同様にして } \infty \mathcal{G}_{xyz}^3 = \int_0^\infty {}_t\mathcal{G}_y (1 - {}_tP_z) {}_tP_x \mu_{x+t} dt = \infty \mathcal{G}_{xy}^2 - \infty \mathcal{G}_{xyz}^2 \dots\dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} \text{ より } 2 \infty \mathcal{G}_{xyz}^3 = \infty \mathcal{G}_{xy}^2 + \infty \mathcal{G}_{xz}^2 - (\infty \mathcal{G}_{xyz}^2 + \infty \mathcal{G}_{xyz}^2)$$

$$\therefore \infty \mathcal{G}_{xyz}^3 = \frac{\infty \mathcal{G}_{xy}^2 + \infty \mathcal{G}_{xz}^2 - \infty \mathcal{G}_{xyz}^2}{2} = 0.35$$

$$\begin{aligned}
& 2. \quad {}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} - {}_tV_{x+1:\overline{n-1}} \\
&= A_{x+t+1:\overline{n-t-1}} - P_{x:\overline{n}} \ddot{a}_{x+t+1:\overline{n-t-1}} - \frac{\alpha}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} \ddot{a}_{x+t+1:\overline{n-t-1}} \\
&\quad - (A_{x+t+1:\overline{n-t-1}} - P_{x+1:\overline{n-1}} \ddot{a}_{x+t+1:\overline{n-t-1}}) \\
&= \frac{\ddot{a}_{x+t+1:\overline{n-t-1}}}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} \{ (P_{x+1:\overline{n-1}} - P_{x:\overline{n}}) \ddot{a}_{x:\overline{n}} - \alpha \} \\
&= (1 - {}_tV_{x:\overline{n}}) \{ (P_{x+1:\overline{n-1}} - P_{x:\overline{n}}) \ddot{a}_{x:\overline{n}} - \alpha \} \quad \left(\because {}_tV_{x:\overline{n}} = 1 - \frac{\ddot{a}_{x+t+1:\overline{n-t-1}}}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} \right)
\end{aligned}$$

$$\text{また、} P_{x+1:\overline{n-1}} = \frac{1}{\ddot{a}_{x+1:\overline{n-1}}} - d, \quad P_{x:\overline{n}} = \frac{1}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} - d$$

$${}_1V_{x:\overline{n}} = 1 - \frac{\ddot{a}_{x+1:\overline{n-1}}}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} \text{ より}$$

$$\begin{aligned}
(P_{x+1:\overline{n-1}} - P_{x:\overline{n}}) \ddot{a}_{x:\overline{n}} &= \left(\frac{1}{\ddot{a}_{x+1:\overline{n-1}}} - \frac{1}{\ddot{a}_{x:\overline{n}}} \right) \ddot{a}_{x:\overline{n}} \\
&= \frac{1}{1 - {}_1V_{x:\overline{n}}} - 1 = \frac{{}_1V_{x:\overline{n}}}{1 - {}_1V_{x:\overline{n}}} = \alpha_0
\end{aligned}$$

$$\therefore {}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} - {}_tV_{x+1:\overline{n-1}} = (1 - {}_tV_{x:\overline{n}}) (\alpha_0 - \alpha)$$

$1 - {}_tV_{x:\overline{n}} \geq 0$ ($t = 0, 1, 2, \dots, n-1$, 等号は $t = n-1$ のとき成立) より

$$t = 0, 1, 2, \dots, n-2 \text{ の場合} \quad \alpha_0 > \alpha \text{ のとき} \quad {}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} > {}_tV_{x+1:\overline{n-1}}$$

$$\alpha_0 = \alpha \text{ のとき} \quad {}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} = {}_tV_{x+1:\overline{n-1}}$$

$$\alpha_0 < \alpha \text{ のとき} \quad {}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} < {}_tV_{x+1:\overline{n-1}}$$

$t = n-1$ の場合、 α と α_0 の大小関係に拘らず ${}_{t+1}V_{x:\overline{n}}^{(z)} = {}_tV_{x+1:\overline{n-1}}$

3.

(1) 責任準備金の再帰式より

$$({}_t V_{x:\overline{n}} + P_{x:\overline{n}})(1+i) = g_{x+t} + p_{x+t} {}_{t+1} V_{x:\overline{n}} \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$({}_t V'_{x:\overline{n}} + P'_{x:\overline{n}})(1+i') = g_{x+t} + p_{x+t} {}_{t+1} V'_{x:\overline{n}} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{2} - \textcircled{1} \quad (1+i')\Delta_t V + (1+i')\Delta P + ({}_t V_{x:\overline{n}} + P_{x:\overline{n}})\Delta i = p_{x+t} \Delta_{t+1} V$$

$$(1+i')\Delta_t V + R_t = p_{x+t} \Delta_{t+1} V \cdots \cdots \textcircled{3}$$

また、 $(1+i')\Delta P$ は t に関して一定

$({}_t V_{x:\overline{n}} + P_{x:\overline{n}})\Delta i$ は前提により t に関する増加関数

従って、 R_t は t に関する増加関数である。

ここで、

(i) R_t が常に正であると仮定すると

$$\textcircled{3} \text{より } (1+i')\Delta_0 V + R_0 = p_x \Delta_1 V > 0 \quad (\because \Delta_0 V = 0, R_0 > 0) \text{ 従って、} \Delta_1 V > 0$$

$$(1+i')\Delta_1 V + R_1 = p_{x+1} \Delta_2 V > 0 \quad (\because \Delta_1 V = 0, R_1 > 0)$$

従って、 $\Delta_2 V > 0$

以下同様にして $\Delta_n V > 0$ となるが、これは $\Delta_n V = {}_n V'_{x:\overline{n}} - {}_n V_{x:\overline{n}} = 0$ と矛盾する。

以上により、 R_t は常に正ではない。

(ii) R_t が常に負であると仮定すると

(i)と同様にして $\Delta_n V < 0$ となり、 $\Delta_n V = 0$ と矛盾する。

したがって R_t は常に負ではない。

(i) (ii) および R_t が t に関する増加関数であることから

$R_0 \leq \cdots \leq R_{t_0} \leq 0 \leq R_{t_0+1} \leq \cdots \leq R_{n-1}$ となる t_0 が存在する。

(2) $\textcircled{3}$ より $(1+i')\Delta_0 V + R_0 = p_x \Delta_1 V \leq 0$ ($\because \Delta_0 V = 0, R_0 \leq 0$) 従って、 $\Delta_1 V \leq 0$

$$(1+i')\Delta_1 V + R_1 = p_{x+1} \Delta_2 V \leq 0 \quad (\because \Delta_1 V \leq 0, R_1 \leq 0) \text{ 従って、} \Delta_2 V \leq 0$$

以下同様にして

$$(1+i')\Delta_{t_0} V + R_{t_0} = p_{x+t_0} \Delta_{t_0+1} V \leq 0 \quad (\because \Delta_{t_0} V \leq 0, R_{t_0} \leq 0)$$

従って、 $\Delta_{t_0+1} V \leq 0$

(ii) $t \geq t_0+1$ のとき

③より $p_{x+t} \Delta_{t+1} V - R_t = (1+i') \Delta_t V$

$$p_{x+n-1} \Delta_n V - R_{n-1} = (1+i') \Delta_{n-1} V \leq 0 \quad (\because \Delta_n V = 0, R_{n-1} \geq 0)$$

従って、 $\Delta_{n-1} V \leq 0$

$$p_{x+n-2} \Delta_{n-1} V - R_{n-2} = (1+i') \Delta_{n-2} V \leq 0 \quad (\because \Delta_{n-1} V \leq 0, R_{n-2} \geq 0)$$

従って、 $\Delta_{n-2} V \leq 0$

以下同様にして

$$p_{x+t} \Delta_{t+1} V - R_t = (1+i') \Delta_t V \leq 0 \quad (\because \Delta_{t+1} V \leq 0, R_t \geq 0)$$

従って、任意の $t \geq t_0+1$ に対して $\Delta_t V \leq 0$

(i), (ii) により、任意の t に対して $\Delta_t V \leq 0$ 、すなわち ${}_t V'_{x:\overline{m}} \leq {}_t V_{x:\overline{m}}$

4.

(1) 過去からの収入終価の総額は

$$P \times \sum_{K=0}^{t-1} l_{40+K} \cdot (1+i)^{t-K}$$

過去からの支出終価の総額は

$$\begin{aligned} & d_{40} \times \{P(1+i)\} \times (1+i)^{t-1} \\ & + d_{41} \times \{P(1+i)^2 + P(1+i)\} \times (1+i)^{t-2} \\ & + \dots \dots \dots \\ & + d_{40+t-1} \times \{P(1+i)^t + P(1+i)^{t-1} + \dots + P(1+i)\} \\ = & P \times \sum_{K=0}^{t-1} d_{40+K} \ddot{S}_{\overline{K+1}|} \times (1+i)^{t-K-1} \end{aligned}$$

したがって過去法により責任準備金 ${}_tV$ を求めると

$$l_{40+t} \cdot {}_tV = P \cdot \sum_{K=0}^{t-1} l_{40+K} (1+i)^{t-K} - P \cdot \sum_{K=0}^{t-1} d_{40+K} \ddot{S}_{\overline{K+1}|} \times (1+i)^{t-K-1}$$

ゆえに

$${}_tV = P \times \sum_{K=0}^{t-1} \frac{D_{40+K}}{D_{40+t}} - P \times \sum_{K=0}^{t-1} \frac{d_{40+K} \cdot v^{40+K+1}}{l_{40+t} \cdot v^{40+t}} \cdot \ddot{S}_{\overline{K+1}|}$$

$v^{K+1} \times \ddot{S}_{\overline{K+1}|} = \ddot{a}_{\overline{K+1}|}$ であることから

$${}_tV = P \times \frac{D_{40}}{D_{40+t}} \times \frac{N_{40} - N_{40+t}}{D_{40}} - P \sum_{K=0}^{t-1} \frac{D_{40}}{D_{40+t}} \cdot {}_K|q_{40} \cdot \ddot{a}_{\overline{K+1}|}$$

$$\ddot{a}_{x:\overline{n}|} = \ddot{a}_{\overline{n}|} q_x + \ddot{a}_{\overline{n-1}|} q_x + \dots + \ddot{a}_{\overline{n-1}|} q_x + \ddot{a}_{\overline{n}|} p_x$$

であることから

$$\begin{aligned} {}_tV &= P \frac{D_{40}}{D_{40+t}} \ddot{a}_{40:\overline{n}|} - P \cdot \frac{D_{40}}{D_{40+t}} \times (\ddot{a}_{40:\overline{n}|} - \ddot{a}_{t|} p_{40}) \\ &= P \cdot \frac{D_{40}}{D_{40+t}} \cdot \ddot{a}_{\overline{n}|} \cdot {}_tP_{40} \\ &= P \times \frac{l_{40} v^{40}}{l_{40+t} \cdot v^{40+t}} \cdot \frac{l_{40+t}}{l_{40}} \cdot \ddot{a}_{\overline{n}|} \\ &= P \times \frac{\ddot{a}_{\overline{n}|}}{v^t} \\ &= P \ddot{S}_{\overline{n}|} \end{aligned}$$

また、終身年金原資は $10,000\ddot{a}_{60}$ であるから

$${}_{20}V = P\ddot{S}_{20|} = 10,000\ddot{a}_{60}$$

$$\therefore P = \frac{10,000\ddot{a}_{60}}{\ddot{S}_{20|}} \quad {}_tV = \frac{10,000\ddot{a}_{60}\ddot{S}_{t|}}{\ddot{S}_{20|}}$$

以上により

①	$\ddot{S}_{t }$
②	$10,000\ddot{a}_{60}$ または $\frac{10,000N_{60}}{D_{60}}$
③	$\frac{10,000\ddot{a}_{60}}{\ddot{S}_{20 }}$ または $\frac{10,000N_{60}}{\ddot{S}_{20 }D_{60}}$

(2) 加入時における純保険料の収入現価は $P\ddot{a}_{40:\overline{20}|} = 0.95P^*\ddot{a}_{40:\overline{20}|}$

$$\text{死亡給付現価} = P^* \sum_{t=0}^{19} {}_{t|}q_{40} v^{t+1} \ddot{S}_{t+1|} = P^* \sum_{t=0}^{19} {}_{t|}q_{40} \ddot{a}_{t+1|}$$

$$= P^* (\ddot{a}_{40:\overline{20}|} - {}_{20}p_{40} \cdot \ddot{a}_{20|})$$

終身年金給付現価は $10,000 \cdot {}_{20|}\ddot{a}_{40}$

収支相等の原則より $0.95P^*\ddot{a}_{40:\overline{20}|} = P^*(\ddot{a}_{40:\overline{20}|} - {}_{20}p_{40} \cdot \ddot{a}_{20|}) + 10,000 \cdot {}_{20|}\ddot{a}_{40}$

$$\therefore P^* = \frac{10,000 \cdot {}_{20|}\ddot{a}_{40}}{{}_{20}p_{40} \cdot \ddot{a}_{20|} - 0.05\ddot{a}_{40:\overline{20}|}}$$

$$= \frac{10,000 \cdot \frac{N_{60}}{D_{40}}}{\frac{l_{60}}{l_{40}} \cdot \frac{1-v^{20}}{1-v} - 0.05 \frac{N_{40}-N_{60}}{D_{40}}} = \frac{10,000N_{60}}{\frac{(1+i)^{20}-1}{1-v} D_{60} - 0.05(N_{40}-N_{60})}$$

ここで、 $D_x = N_x - N_{x+1}$, $M_x = vN_x - N_{x+1}$ より $N_x = \frac{D_x - M_x}{1-v}$

$$\therefore N_{40} = 389,948, N_{60} = 112,805$$

従って、 $P^* = 4,593$

以上により、営業保険料の値

4,593^円